



# 2022年3月期 決算説明資料

2022年5月11日

**DAICEL**  
Sustainable Value Together

株式会社 **ダイセル**

## 目次

<b>1. 決算サマリー</b>	<b>P. 3</b>
<b>2. 外部環境</b>	<b>P. 5</b>
<b>3. 2022年3月期 決算</b>	<b>P. 7</b>
<b>4. 2023年3月期 業績予想</b>	<b>P. 15</b>
<b>5. 株主還元</b>	<b>P. 21</b>
<b>6. 中期戦略の実現に向けて</b>	<b>P. 22</b>
<b>7. 参考資料</b>	<b>P. 32</b>

## 決算サマリー

### ◇ 2022年3月期 業績

- **売上高4,679億円、営業利益507億円** 22年2月に公表した計画を上回る収益
- セーフティが自動車減産の影響を受けたものの、酢酸市況が想定を上回る水準で推移したことや、積極的な価格是正に取り組んだことなどにより、マテリアルやエンジニアリングプラスチックの収益が計画を上回った

### ◇ 2023年3月期 業績予想

- **売上高5,400億円、営業利益465億円** 売上高は過去最高を更新する計画
- セーフティ、エンジニアリングプラスチック、マテリアルを中心に全セグメントで拡販を実施。原燃料・物流コスト上昇に伴う販売価格是正に取り組むも、酢酸市況の低下、物流コスト上昇などの費用増加の影響により増収減益を見込む

### ◇ 株主還元

- 2022年3月期期末配当予想 18円/株（前回予想より2円増配。通期予想34円/株）
- 2023年3月期配当予想 36円/株（2022年3月期より2円増配）

### ウクライナ情勢による影響

当社は、ロシア、ウクライナ向けにアセテート・トウを販売しておりますが、連結売上高に占める割合は1%未満です。また、顧客による他地域への生産地変更もあり、当該事業に関連する当社連結業績に与える影響は軽微です。

一方、原燃料・物流コストの上昇を2023年3月期計画に織り込むとともに、状況の長期化が製品市場やサプライチェーンに与える影響を注視し、さまざまなリスクを想定して対策を講じてまいります。

### 全社共通費用の配賦方法変更について

当社は、大胆な権限委譲により自立自走する事業組織への変革を進めています。全社共通費用についても、各事業が負担すべき費用を負担し、責任を持って管理する体制に移行するため、2023年3月期より全社共通費用の配賦方法を見直します。

配賦方法見直し後のセグメント別営業利益の数字は参考資料P34に記載しています。


**市場動向**

セグメント	主要製品	主要市場	2022年3月期の状況	2023年3月期の見通し
メディカル・ヘルスケア	化粧品原料 健康食品原料	コスメ ヘルスケア	<p>コスメの国内市場は低調に推移。一方、コロナ禍から早期に回復した中国市場の需要は増加</p> <p>健康食品の国内市場はコロナ禍での健康意識の高まりにより堅調に推移</p>	<p>コスメの国内市場は緩やかな回復傾向にあるものの、コロナ前の勢いはない。中国市場は引き続き好調に推移</p> <p>健康食品の国内市場は堅調に推移する見通し</p>
	キラルカラム	ライフサイエンス	<p>コロナ禍からの米国市場の需要回復や中国・インドの製薬向け需要の伸びなどにより、キラルカラムは好調に推移</p>	<p>前年度に引き続き中国・インドの成長によりキラルカラム需要は好調に推移する見通し</p>
スマート	TAC (※) 機能フィルム レジスト材料 電子材料溶剤	電子デバイス 半導体	<p>液晶パネル需要はコロナ禍からの需要回復により大きく増加し、その他電子デバイスの需要も増加。半導体市場は旺盛な需要を背景に成長。</p>	<p>液晶パネル需要の成長率は鈍化するものの増加する見通し。その他電子デバイス、半導体は引き続き高い水準の需要が継続する見通し</p>
セイフティ	エアバッグ用インフレーター	自動車	<p>自動車生産台数はコロナ禍からの回復により前年度比で増加したものの、半導体をはじめとする部品供給問題の影響あり</p>	<p>自動車生産台数は前年度から増加する想定だが、半導体不足やウクライナ情勢の影響など先行きは不透明</p>

※TAC (Tri-acetyl cellulose) : 液晶表示フィルム向け酢酸セルロース


**市場動向**

セグメント	主要製品	主要市場	2022年3月期の状況	2023年3月期の見通し
マテリアル	アセチル (酢酸、 酢酸誘導体、 アセテート・ トウ)	樹脂・インク 用原料 塗料用溶剤	酢酸の主用途である酢酸ビニル、PTAの需要はコロナ禍からの回復により好調に推移。一方で北米大寒波、中国環境規制などによる供給面での不安から、市況は高い水準で推移 酢酸エチルの需要もグラビアインキ向けなど各用途で好調に推移。酢酸市況上昇に伴い市況は上昇	酢酸ビニル、PTAの需要は堅調に推移するものの、供給面の回復により、酢酸市況は低下傾向を見込む 酢酸エチルの需要も引き続き堅調に推移するも、市況は酢酸市況低下の影響を受ける見通し
		繊維 フィルター	アセテート・トウの主用途であるフィルターのグローバル市場はコロナ禍からの回復基調で推移	フィルターのグローバル需要は概ね横這いで推移する見通し
	ケミカル (エポキシ樹脂、 カプロラクトン 誘導体、 その他化学品)	電材・ コーティング 用原料	エポキシ樹脂、カプロラクトン誘導体の主要市場の一つである自動車市場はコロナ禍から回復したものの半導体不足の影響を受けた。同じく主要市場の一つである電子デバイスは好調に推移	自動車生産台数は増加する見通し。また、電子デバイス向け需要も好調に推移する見通し
エンジニアリング プラスチック	POM PBT PPS	自動車部品	サプライチェーンの混乱により自動車減産が続くなかでも、自動車部品業界は在庫確保の動きにより需要は堅調に推移	自動車部品市場は引き続き堅調に推移する見通し
		電機・電子 ・精密機器	スマートフォンやパソコンの需要は堅調に推移した一方で、白物家電需要は国内の巣ごもり需要一巡の影響もあり弱含みで推移	スマートフォンは5G対応機種切り替えなどにより需要は好調に推移する見通し。白物家電需要は前年並みの見通し
	LCP	電子デバイス	スマートフォン需要が好調に推移。5G普及による基地局新設需要も増加	電子デバイスは引き続き高い水準の需要が継続する見通し

## 2022年3月期 業績

(単位：億円)

	2021/3 実績	2022/3 予想(※)	2022/3 実績	対前年度		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	3,936	4,620	4,679	+744	+18.9%	+59	+1.3%
営業利益	317	495	507	+190	+59.8%	+12	+2.4%
経常利益	347	535	573	+226	+65.2%	+38	+7.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	197	290	313	+115	+58.5%	+23	+7.8%
為替レート USD/JPY	106	112	112				
ROIC	4.1%	6.2%	6.2%				
ROE	6.6%	11.9%	12.3%				
ROA	3.2%	4.4%	4.7%				
EBITDA	591	777	789				
EPS (円)	65.18	97.05	104.14				

## ＜対前年度＞

- コロナ禍の影響を大きく受けた前年度と比較して幅広い産業で需要が回復し、セイフティ、エンジニアリングプラスチックを中心に販売数量が増加
- コロナ禍による世界的なコンテナ不足や燃料費上昇により販売直接費が増加したものの、販売数量の増加、酢酸市況上昇、原燃料・物流コスト上昇に伴う販売価格是正、事業構造改革の推進が増益に貢献

## セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

売上高	2021/3 実績	2022/3 前回予想	2022/3 実績	対前年度		対前回予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	162	195	195	+33	+20.3%	△ 0	△0.0%
スマート	247	320	325	+78	+31.5%	+5	+1.5%
セイフティ	672	697	695	+22	+3.3%	△ 2	△0.4%
マテリアル	1,042	1,198	1,228	+186	+17.9%	+30	+2.5%
エンジニアリング プラスチック	1,686	2,100	2,123	+437	+25.9%	+23	+1.1%
その他	127	110	114	△ 13	△10.0%	+4	+3.7%
合 計	3,936	4,620	4,679	+744	+18.9%	+59	+1.3%

営業利益	2021/3 実績	2022/3 前回予想	2022/3 実績	対前年度		対前回予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	16	31	34	+19	+120.1%	+3	+10.8%
スマート	34	60	58	+24	+70.0%	△ 2	△3.4%
セイフティ	22	62	52	+30	+132.6%	△ 10	△16.3%
マテリアル	179	240	248	+69	+38.2%	+8	+3.2%
エンジニアリング プラスチック	212	240	258	+46	+21.7%	+18	+7.3%
その他	15	16	18	+3	+19.2%	+2	+10.4%
全社共通	△ 161	△ 154	△ 160	+0	+0.2%	△ 6	+4.1%
合 計	317	495	507	+190	+59.8%	+12	+2.4%



## セグメント別情報（2022年3月期（4月～3月）の状況）

＜対前年度＞

コロナ禍からの需要回復による販売機会を捉え、各セグメントで販売数量が増加

<b>メディカル・ヘルスケア</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コスメ事業は、需要が回復する中国市場への拡販を進め、増収</li> <li>・ キラル分離事業は、海外向けキラルカラム・充填剤の拡販やインドにおける分析サービス、米国のゲノミクス製品・サービス（遺伝子解析関連）の成長により、増収</li> </ul>
<b>スマート</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 液晶表示向けフィルム用酢酸セルロース（TAC）は液晶パネル需要の回復により、販売数量が増加し、増収</li> <li>・ 高機能フィルムもテレビ向け新規採用などにより販売数量が増加し、増収</li> <li>・ 電子材料向け溶剤やレジスト材料は、半導体材料市場の需要が好調に推移し販売数量が増加したことや、原料コスト上昇等に伴う販売価格の上昇により増収</li> </ul>
<b>セイフティ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インフレータは、半導体不足などによる自動車減産の影響を受けたものの、新規受注プログラムの立ち上がりなどにより販売数量が増加し、増収</li> </ul>
<b>マテリアル</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 酢酸・酢酸誘導体は主に市況上昇の影響により増収</li> <li>・ アセテート・トウは、会計基準の変更により販売数量は減少したものの、為替の影響により、売上高は微増</li> <li>・ カプロラクトン誘導体は中国向け市場などの需要回復により販売数量が増加し、増収</li> <li>・ エポキシ化合物は、好調な電子材料用途への拡販などにより販売数量が増加し、増収</li> </ul>
<b>エンジニアリングプラスチック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 戦略的な在庫確保のための販売調整を行いつつ、拡販を進めたことにより販売数量は増加</li> <li>・ 原材料・物流コスト上昇に伴う価格是正を積極的に推進したことにより、増収</li> </ul>

## セグメント別情報（2022年3月期第4四半期（1月～3月）の状況）

<対前回予想>

<b>メディカル・ヘルスケア</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>化粧品原料（1,3-BG）は、国内の需要増に対応して海外向けで販売調整を行ったことにより、売上高はほぼ計画並み</li> <li>海外向けキラルカラム販売は堅調に推移し、その他事業も計画通り進捗したため、売上高はほぼ計画並み</li> </ul>
<b>スマート</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>液晶表示向けフィルム用酢酸セルロースは、パネルメーカーに稼働調整の動きがみられたものの、需要が当社の想定を上回り、売上高は計画より増加。</li> <li>機能フィルムは主にテレビ向け新規採用の貢献により売上が計画より増加</li> <li>電子材料溶剤は、販売価格は上昇したものの、主に液晶パネル用途で販売数量が減少し、売上高は計画を少し下回った</li> <li>レジスト材料の売上高はほぼ計画並み</li> </ul>
<b>セイフティ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インフレータは自動車減産の影響により売上高が計画を下回った</li> </ul>
<b>マテリアル</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>酢酸市況が想定を上回る水準で推移</li> <li>アセテート・トウは主に為替の影響により売上高が計画より増加</li> <li>原燃料・物流コスト上昇に伴う積極的な価格是正に取り組み、全体的に販売価格は計画を上回った</li> </ul>
<b>エンジニアリングプラスチック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物流混乱の影響などにより販売数量は計画を下回ったものの、コスト上昇に伴う積極的な販売価格の是正や為替の影響により、売上は計画より増加</li> </ul>

## セグメント別売上高・営業利益（対前年度増減・要因分析）

（単位：億円）

売上高	2021/3 実績	2022/3 実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	162	195	+33	+20.3%	+24	+8	+10
スマート	247	325	+78	+31.5%	+58	+20	+5
セイフティ	672	695	+22	+3.3%	△ 5	+27	+32
マテリアル	1,042	1,228	+186	+17.9%	△ 17	+203	+50
エンジニアリング プラスチック	1,686	2,123	+437	+25.9%	+159	+278	+66
その他事業	127	114	△ 13	△ 10.0%	△ 13	-	-
合計	3,936	4,679	+744	+18.9%	+207	+536	+163

営業利益	2021/3 実績	2022/3 実績	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	価格影響の内 為替影響	その他
メディカル・ヘルスケア	16	34	+19	+120.1%	+22	△ 1	+2	△ 2
スマート	34	58	+24	+70.0%	+27	△ 0	+2	△ 3
セイフティ	22	52	+30	+132.6%	+8	+13	+12	+9
マテリアル	179	248	+69	+38.2%	△ 4	+56	+20	+17
エンジニアリング プラスチック	212	258	+46	+21.7%	+63	+46	+13	△ 63
その他事業	15	18	+3	+19.2%	+3	-	-	-
全社共通	△ 161	△ 160	+0	+0.2%	-	-	-	+0
合計	317	507	+190	+59.8%	+120	+113	+48	△ 42

## セグメント別 営業利益（対前年度 増減・要因分析）

		営業利益	営業利益の増減要因
メディカル・ヘルスケア	数量影響	+22	+ 1,3-BGやエクオール、キラルカラムなどの販売数量増加
	価格影響	△ 1	△ 原材料価格上昇
	その他	△ 2	△ 経費増加
スマート	数量影響	+27	+ TACや機能フィルムなどの販売数量増加
	価格影響	△ 0	△ 原材料価格上昇
	その他	△ 3	△ 経費増加
セイフティ	数量影響	+8	+ 新規プログラム獲得による販売数量増加、操業度増加
	価格影響	+13	+ 為替影響
	その他	+9	+ 在庫影響
マテリアル	数量影響	△ 4	△ 収益認識会計基準変更による影響
	価格影響	+56	+ 酢酸市況上昇、コスト上昇に伴う価格是正、為替影響
	その他	+17	+ 在庫影響
エンジニアリング プラスチック	数量影響	+63	+ コロナ禍からの需要回復による販売数量増加
	価格影響	+46	+ コスト上昇に伴う価格是正、為替影響
	その他	△ 63	△ 直接販売費などの費用増加

## 連結貸借対照表

(単位：億円)

		2021年 3月末	2022年 3月末	増減
<b>流動資産</b>		<b>3,125</b>	<b>3,602</b>	<b>+477</b>
	現預金及び有価証券	915	905	△ 10
	受取手形及び売掛金	932	1,026	+94
	棚卸資産	1,087	1,420	+333
	その他	192	252	+60
<b>固定資産</b>		<b>3,279</b>	<b>3,386</b>	<b>+107</b>
	有形固定資産	2,197	2,298	+101
	無形固定資産	106	101	△ 5
	投資その他資産	975	987	+11
<b>資産合計</b>		<b>6,404</b>	<b>6,988</b>	<b>+585</b>
<b>負債</b>		<b>3,954</b>	<b>4,193</b>	<b>+239</b>
	有利子負債	2,709	2,836	+126
	その他	1,244	1,357	+113
<b>純資産</b>		<b>2,450</b>	<b>2,795</b>	<b>+345</b>
<b>負債純資産 合計</b>		<b>6,404</b>	<b>6,988</b>	<b>+585</b>

- 総資産増加額585億円のうち、227億円が為替影響
- 棚卸資産は為替・原燃料価格上昇の影響に加え、エンジニアリングプラスチックなどにおいて戦略的に在庫の積み増しを実施したことで増加
- 有形固定資産は、インフレ率のインド製造拠点新設や酢酸原料プラント更新などの設備投資、為替影響による増加がある一方で化粧品原料プラントの減損による減少もある
- 運転資金増加に伴う短期借入実施により有利子負債が増加

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	2021/3	2022/3	増減
営業キャッシュ・フロー	579	430	△ 149
投資キャッシュ・フロー	△ 342	△ 465	△ 123
フリーキャッシュフロー	236	△ 35	△ 272
財務キャッシュ・フロー	△ 171	△ 55	+116
その他	35	62	+28
現金及び現金同等物の増減額	101	△ 29	△ 129
現金及び現金同等物の当期末残高	907	880	△ 28

- フリーキャッシュフローは、利益が増加したものの、物流混乱に対応して販売機会を確保するための戦略的な在庫積み増しや、積極的な設備投資などにより△35億円となり、対前年度で272億円減少

## 2023年3月期 業績予想

(単位：億円)

	2022/3 実績	2023/3 予想	増減	増減率 (%)
売上高	4,679	5,400	+721	+15.4%
営業利益	507	465	△ 42	△8.3%
経常利益	573	485	△ 88	△15.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	313	370	+57	+18.4%
為替レート USD/JPY	112	115		
ROIC	6.2%	5.3%		
ROE	12.3%	13.0%		
ROA	4.7%	5.2%		
EBITDA	789	766		
EPS (円)	104.14	125.12		

## (参考) 中期戦略経営指標

	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
ROIC	1.5%	2.5%	4.5%	7.0%	10.0%
EBITDA	600	680	820	1,000	1,160

## 2023年3月期 業績予想

- 2023年3月期は、セイフティ、エンジニアリングプラスチック、マテリアルを中心に全セグメントで拡販を実施。原燃料・物流コスト上昇に伴う販売価格是正、徹底したコストダウンに取り組むも、酢酸市況低下による影響や、物流コスト上昇など費用増の影響により、増収減益を見込む
- 2023年3月期は、EBITDAは微減、ROICは低下する見通し
- 原材料調達や物流の混乱に対応して販売機会を確実に捉えるための在庫積み増しや、積極的な設備投資により、事業用資産は増加
- 設備投資の時期ずれの影響もあり、中期戦略期間の投下資本は計画よりも増加する見込みだが、EBITDAは中期戦略を上回る水準で推移する見通し
- 足元では物流混乱に備えて戦略的に在庫を積み増ししているが、必要在庫予測精度向上による効率的な生産を実現し、販売機会を失うことなく棚卸資産削減を実施。中期戦略期間中にキャッシュ・コンバージョン・サイクル110日台を目指す

### (参考) 中期戦略期間(2022/3~2026/3)の設備投資額・減価償却費見通し

(単位：億円)

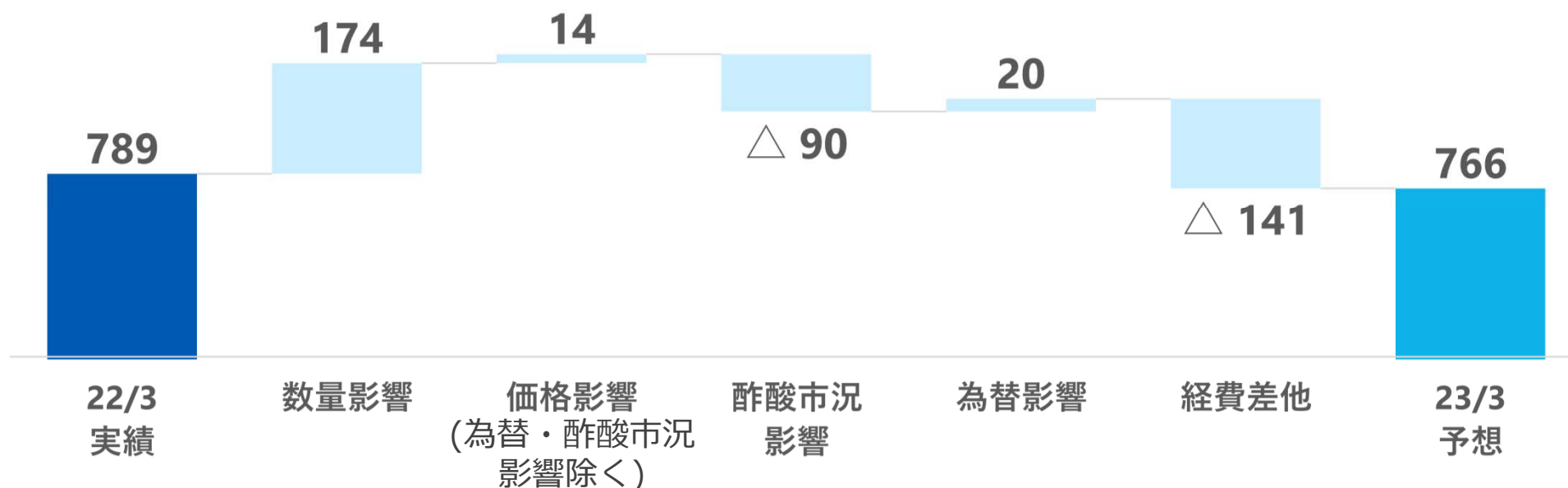
		2022/3	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3	累計
今回計画	設備投資額	408	720	946	485	329	2,889
	減価償却費	275	300	447	513	507	2,042
【参考】 中期戦略	設備投資額	550	450	520	320	260	2,100
	減価償却費	433	438	454	441	436	2,200

※減価償却費には長期前払費用償却が含まれています。また、今回計画の2022年3月期の設備投資額・減価償却費は実績値です



## 2023年3月期 業績予想 EBITDA増減分析（対前年度）

（単位：億円）



- セーフティ、エンジニアリングプラスチック、マテリアルを中心に全セグメントで拡販を実施。操業度の増加もあり、数量影響が大きくプラス
- 酢酸市況低下による影響を大きく受けるものの、原燃料・物流コスト上昇に伴う販売価格是正に積極的に取り組み、酢酸市況影響を除いた価格影響はプラスを維持
- 為替レート (USD/JPY) 前提 2022年3月期：112円 ⇒ 2023年3月期：115円
- 徹底したコストダウンに取り組むも、物流コスト上昇の影響のほか、化粧品原料の新プラント稼働やインフレータ新規プログラム立ち上げに伴う費用増などにより、経費差他はマイナス

## 大型投資案件の状況

### ◇ 酢酸原料（一酸化炭素）プラントの状況

- ・ 機器メーカーの設計ミスに伴う特定機器の性能不足が判明、メーカーとの補償交渉と並行して再工事を実施
- ・ 当該プラントの原料として使用予定だったロシア炭の禁輸措置に伴い、代替炭への切り替えが必要  
代替炭候補の品質確認とそれに対応する一部設備の改造が必要
- ・ これらの要因から、23年6月の網干工場定期修繕時まで商業運転の再延期を決定。商業運転までの期間を利用し、使用可能炭種のさらなる拡大などコストダウンに取り組み、低炭素社会移行を見据えた中期的な原料転換の検討にも着手

### ◇ 化粧品原料（1,3-BG）プラントの状況

- ・ 前回試運転結果を踏まえた設備改造を施し、22年8月の商業運転を予定
- ・ プロセス革新による省エネ効果をさらに向上させる改善策を実施して商業運転を開始

### （参考） 大型投資案件に関する減価償却費の見通し

（単位：億円）

	2022/3	2023/3	2024/3	2025/3	2026/3
今回計画	0	15	110	100	75
【参考】 前回計画（22年2月公表）	0	105	105	80	60
【参考】 中期戦略（21年2月公表）	130	115	85	65	50

## セグメント別 売上高・営業利益

(単位：億円)

売上高	2022/3 実績	2023/3 予想	対前年度	
			増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	195	240	+45	+23.1%
スマート	325	390	+65	+20.0%
セイフティ	695	860	+165	+23.8%
マテリアル	1,228	1,350	+122	+9.9%
エンジニアリングプラスチック	2,123	2,470	+347	+16.4%
その他	114	90	△ 24	△21.1%
合 計	4,679	5,400	+721	+15.4%

営業利益	2022/3 実績 (※)	2023/3 予想	対前年度	
			増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	24	25	+1	+2.5%
スマート	40	41	+1	+1.6%
セイフティ	26	52	+26	+101.3%
マテリアル	183	92	△ 91	△49.8%
エンジニアリングプラスチック	221	250	+29	+13.1%
その他	12	5	△ 7	△58.1%
合 計	507	465	△ 42	△8.3%

EBITDA	
2022/3 実績	2023/3 予想
42	54
64	67
84	113
285	187
296	333
19	12
789	766

※2022年3月期実績のセグメント別営業利益は、全社費用配賦方法見直し後の参考値です。

## セグメント別情報（2023年3月期計画）

全社を挙げて販売価格是正に取り組み、原燃料・物流コスト上昇分を転嫁

<b>メディカル・ヘルスケア</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コスメ事業は、化粧品原料（1,3-BG）新プラント稼働により、さらなる拡販に取り組む</li> <li>・ 健康食品事業は、注力する腸内代謝物の新素材および既存素材の拡販に取り組む</li> <li>・ キラル分離事業は、製薬市場の需要を取り込んでキラルカラム、分析サービス等の拡販に取り組むと同時に、ゲノミクス製品・サービスのさらなる成長を目指す</li> </ul>
<b>スマート</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 液晶表示向けフィルム用酢酸セルロース（TAC）は、品質改善による競争力向上により、シェアアップに取り組む</li> <li>・ 機能フィルムは、市場が拡大する新開発のテレビ用フィルムの拡販に取り組む。また、グンゼ電子部品事業部フィルム部門譲受により事業領域が拡大、成長を加速させる（詳細はP29をご参照）</li> <li>・ 電子材料溶剤やレジスト材料は引き続きフル製造・フル販売を継続。需要の拡大に対応するため増産対応と次計画を加速</li> </ul>
<b>セイフティ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産地統廃合、カタログ化、自動化などの事業構造改革を着実に進める</li> <li>・ 新興国を中心とする新規プログラム獲得によりインフレータのシェアアップに取り組む</li> </ul>
<b>マテリアル</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アセテート・トウは、需要への安定供給を維持しながら、加熱式たばこ用途など高価格製品の拡販に取り組む</li> <li>・ 酢酸セルロースは、堅調な需要への対応に加えて、新規顧客への拡販に取り組む</li> <li>・ カプロラクトン誘導体は、拡販に取り組みつつ、高価格・高機能市場へのアロケーションを進める</li> <li>・ エポキシ樹脂は需要が堅調な電子材料分野での拡販に取り組む</li> </ul>
<b>エンジニアリングプラスチック</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生産設備フル稼働に加え可動率向上により供給能力を確保し、拡販に取り組む</li> <li>・ PSI（生産・販売・在庫）管理の徹底による物流コストの抑制、ポリプラスチック製造拠点へのダイセル式生産革新の展開によるコストダウン加速</li> </ul>

## 株主還元

中期戦略：一株当たり配当金32円を下限に、総還元性向40%以上をターゲットに設定

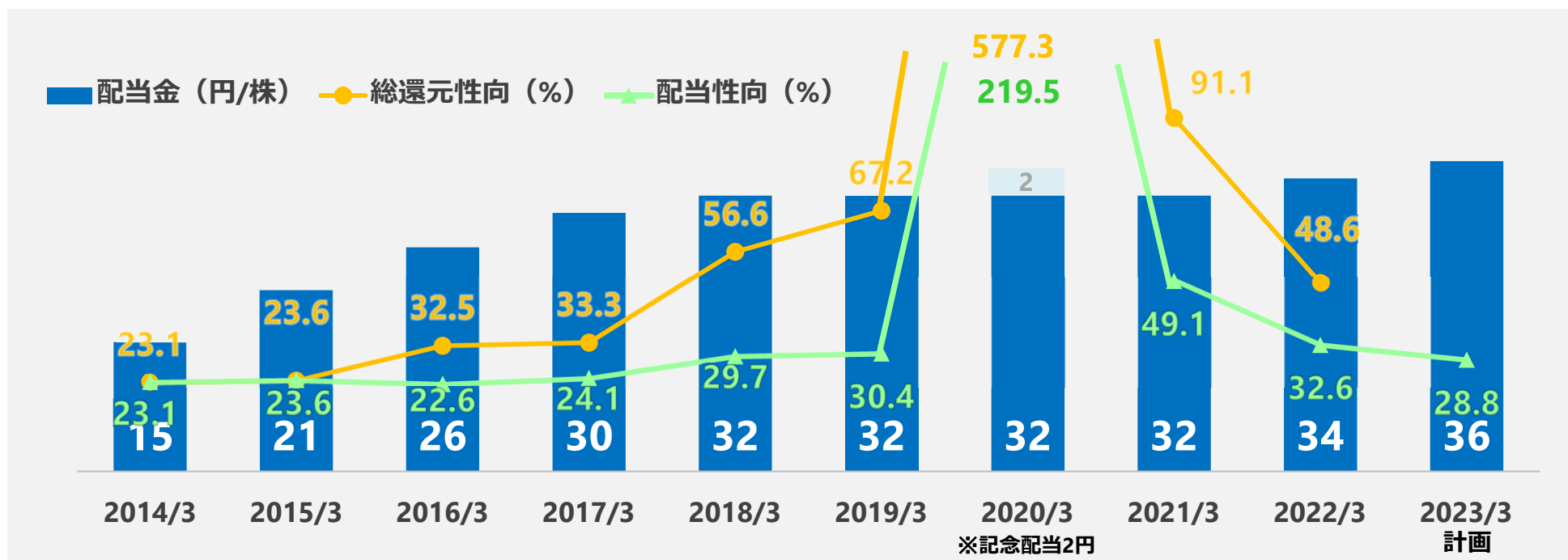
### 2022年3月期

- ・ 期末配当予想 18円/株（年間配当予想 34円/株 前回発表から2円増配）
- ・ 約50億円、600万株の自己株式取得を実施（取得期間：2021年11月～2022年2月）

### 2023年3月期

- ・ 年間配当予想 36円/株（2022年3月期から2円増配。キャッシュ創出力の向上を株主還元に充当）

今後、株主還元のさらなる強化を検討し、中期戦略の方針に沿った還元を維持



## セイフティ事業の収益改善

収益改善、競争力強化のため、中期戦略で掲げた施策を進めています。生産地統廃合が完了する2024年3月期からの大幅増益を目指します。

### ◇生産地統廃合

- ・複数拠点において生産地統廃合を2023年3月期末までに完了
- ・韓国拠点の解散を決定（2022年4月で生産停止）

### ◇品種統合（カタログ化）

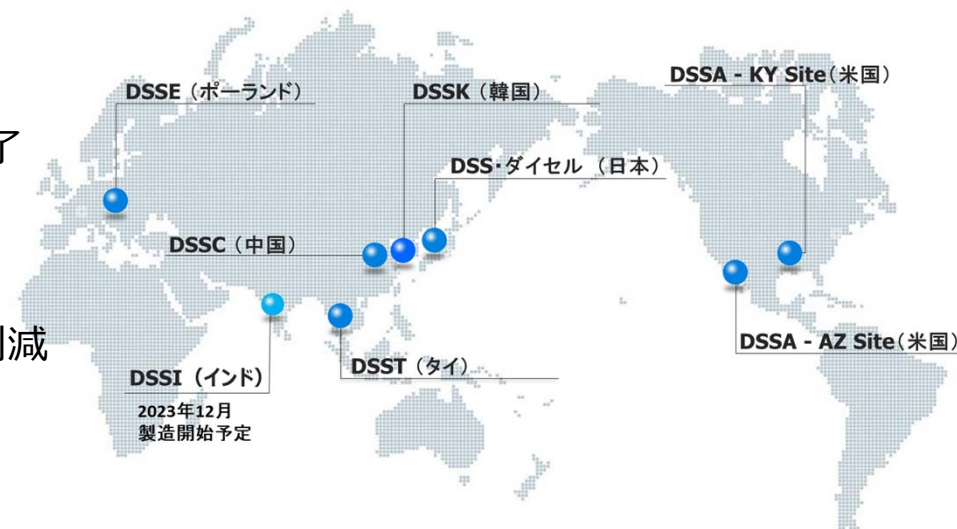
- ・2026年3月期までに、30品種 144品番を 10品種 85品番に削減
- ・品種統合により部品点数を削減
- ・品種統合した製品の受注は計画通り進捗

### ◇ガス発生剤の開発

- ・実証設備による既存製品の品質安定化
- ・燃烧性能を改善したガス発生剤を2023年3月期から一部インフレータに適用
- ・新たな製法である乾式打錠成型により品質改善とコスト競争力を高めたガス発生剤を2025年以降上市予定

### ◇人生産性の向上

- ・設備の自動化、省人化などにより、人生産性の向上を図る



	22/3	23/3 計画	26/3 計画
自動化率	59%	67%	71%
人員数 ※21年3月期比	243名削減	412名削減	888名削減

## 次世代育成、成長牽引を担う製品の増産

市場が拡大する次世代育成・成長牽引事業の増産投資を積極的に進め、  
中期戦略（EBITDA最終年度ターゲット 1,160億円）の想定を上回るキャッシュ創出力を確保します

分類	製品	セグメント	内容	稼働開始	能力
次世代育成	1,3BG	メディカル・ヘルスケア	網干工場新プラント	2022年8月	既存プラントと同能力
	高機能フィルム	スマート	亀岡工場能力増強	2026年3月期	
	レジスト材料	スマート	新井工場能力増強	2025年3月期	※マイクロ流体デバイスを適用
	ウエハーレベルレンズ	スマート	播磨工場能力増強	2024年3月期	
成長牽引	電子材料向け溶剤	スマート	大竹工場能力増強	2024年3月期	
	インフレータ	セイフティ	インド新工場	2023年12月	
	エポキシ化合物	マテリアル	国内生産拠点の効率化および海外生産拠点の新設も含め、増産体制を構築中		
	LCP	エンジニアリングプラスチック	台湾新プラント	2025年3月期 上期	5,000トン/年
			台湾プラント拡張	—	5,000トン/年
	COC		ドイツ新プラント	2025年3月期	20,000トン/年
	POM		中国新プラント（1期）	2025年3月期	90,000トン/年
中国新プラント（2期）			2026年3月期	60,000トン/年 ※既存プラント △60,000トン/年	

## 成長を加速させる新しい製品

お客様との共創や機能の意識等により市場開拓を進めたことで、新しい製品の上市が進んでいます。当社は、新しい市場ニーズの発掘や、お客様・お取引様と一体となった価値提供を行うことで、新事業創出を推進してまいります。

製品	2022年3月期 売上実績	2023年3月期 売上予想	2026年3月期 売上目標	2031年3月期 売上目標
酢酸セルロースの機能化 新規ファインセルロース製品  環境対応 酢酸セルロース樹脂	1億円	2億円	100億円超	400億円超
One Time Energy (産業用、 車載用パイロデバイス)  電流遮断装置	10億円	15億円	100億円超	400億円超
高機能フィルム製品 (ディスプレイ、電子部品用途など)	40億円	55億円	100億円超	200億円超
無機有機複合材料 高機能材料	—	—	100億円超	300億円超



### バイオマスバリューチェーンの実現に向けて ～新組織の設置による実装加速～

#### なぜ、当社がバイオマスバリューチェーンに取り組むのか

- ・ 創業時からセルロースを扱ってきた植物由来化学製品のパイオニア
- ・ 非石油のC1化学にもいち早く着手
- ・ 現在、メタノールを出発原料とする製品は化学品売上の5割
- ・ 原料のバイオメタノール化により、バイオマス製品群への転換が可能な化学会社

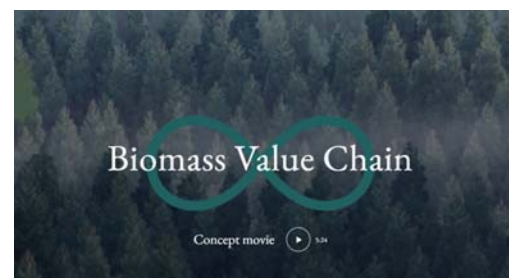
#### バイオマス関連の実行組織「バイオマスイノベーションセンター」を新設

当社にとって新バイオマスプロダクトツリーの実現やバイオマスバリューチェーンの構築は、酢酸セルロース事業の更なる発展と、カーボンニュートラルなどの社会的課題解決の双方に対して大きな推進力になります。

これらの社会実装に向け、関連の取り組みを俯瞰的に管轄する実行組織としてバイオマスイノベーションセンターを新設し、産業・学術・官庁の垣根を超えた共創をより一層加速させます。

バイオマスバリューチェーン特設サイト

<https://www.daicel.com/bvc/>



## バイオマスバリューチェーンの実現に向けて ～ダイセルらしい新素材の創出～

バイオマス素材としての酢酸セルロースや、精密な化学修飾技術を用いた新素材の創出により、サステナブルなプロダクトの創出・拡販を狙います。

### 1. 従来品・酢酸セルロースの生分解性向上による拡販

主力製品である酢酸セルロースは、植物由来のバイオプラスチックという環境特性と従来の汎用プラスチック並みの高い加工性を兼ね備えています。さらに生分解性の向上、食品対応グレードの開発などを進めており、今後はカトラリーなどのワンウェイ用途を皮切りに新規市場を開拓し、グローバルに寄せられる顧客からの強い生分解性プラスチックへの要求に応え、拡販に繋げていきます。



カトラリーや食品容器などの  
成形イメージ

### 2. 新たなファインセルロース、誘導体のラインナップ強化による多様なニーズへの対応

セルロースの精密な化学修飾により、今までにないファインセルロースを創出しています。製品のバリエーションを増やし、顧客の多様なニーズに対応していきます。

例：貴金属やヒ素などを選択的に吸着できる金属吸着剤など  
推定市場規模はレアメタル回収1兆円、土壌のヒ素除去システム1,000億円



金属吸着剤で取り出した  
パラジウム

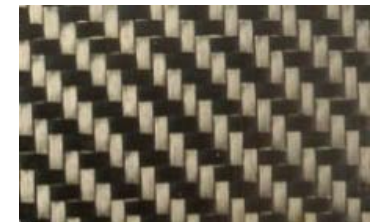
## 「溶かす技術」による技術革新の加速

### 1. 「溶かす技術」による、新たな素材・製品群の創出

穏和な条件下で木質を溶かす技術により、

- 従来不可能だった精密に制御された化学反応による様々な新素材を開発
- 本来、木材に含まれている反応性に富んだ物質（リグニン、ヘミセルロースなど）を変質させずに抽出し、それらを出発原料とした新たな製品群を創出

例：高品質なリグニンを出発原料とした高付加価値化学物質の合成  
木質と金属・ガラスなどの無機物からなる新規ハイブリッド材料  
木質と合成高分子の新規ハイブリッド材料



木質とカーボンの  
ハイブリッド材料  
(イメージ)

### 2. 「溶かす技術」による従来の製造プロセスの省エネルギー化

穏和な条件下で木質を溶かす技術により、

- 従来の木材溶解に必要なだったエネルギー多消費型の製造プロセスを大幅に短縮可能
- 省エネルギーによる環境負荷低減とコスト削減、生産性向上など製造業の競争力を強化

## 「溶かす技術」による技術革新の加速

### 3. 「溶かす技術」を他の化学プロセスに応用し、マイクロ流体デバイスプラントを実現

- ・ 「溶かす技術」… 細い流路内でも物質を詰まらせない
  - ・ ダイセル式生産革新 … 化学プラントの単位操作をモジュール化し約40種の組み合わせで製造が可能
- ⇒従来困難とされていたマイクロデバイス、ナノ流路での精密な反応コントロールを可能に

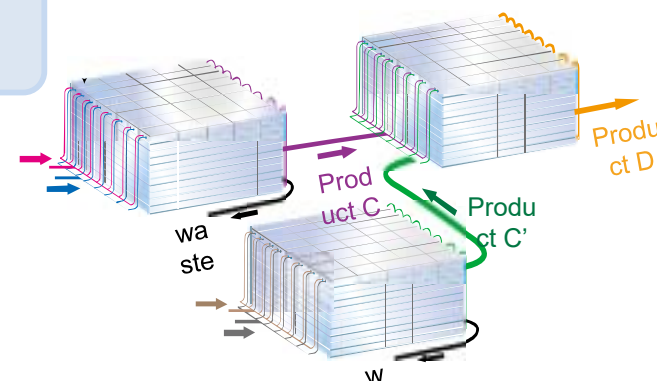
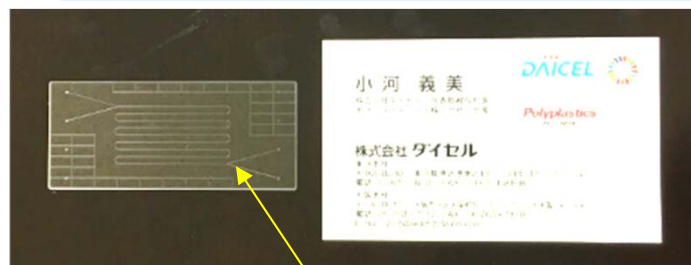
#### マイクロ流体デバイスとは

- ・ 基盤上に数百 $\mu\text{m}$ の流路を設け、その中で物質の混合、反応、精製などの化学操作を行う
- ・ 研究領域で確立された製法のまま、基盤を一万枚以上、超並列化し、数十トン以上/年を製造できる

#### マイクロ流体デバイスプラントで、理想形の反応を実現

- ・ 不純物が発生せず、化学プラントからエネルギーを大量消費する回収工程が不要になる
- ・ マテリアルズ・インフォマティクスのシミュレーション技術に応用でき、開発時間を短縮
- ・ プラントの新設、増強は基盤を増やすだけで可能、スケールアップによる顧客評価が不要
- ・ 設備投資額の圧縮、省エネルギー、省スペース、省資源化を実現

2024年の新井工場の半導体レジスト製造を皮切りに、複数の国内工場での稼働を予定



従来の化学プラント

マイクロ流体デバイス

マイクロ流体デバイスプラント 実験装置イメージ

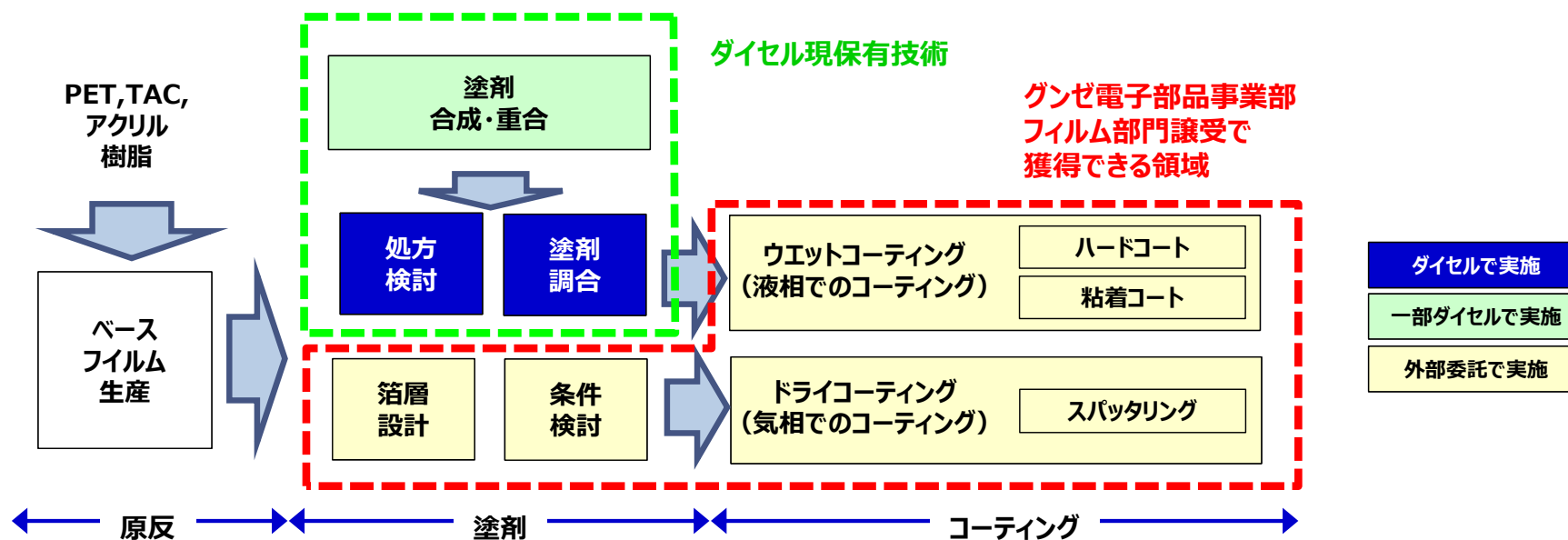
## グンゼ株式会社電子部品事業部フィルム部門譲受による事業拡大

グンゼ株式会社電子部品事業部フィルム部門（亀岡工場）を譲受し、機能フィルム事業を拡大させるとともに、当社の独自素材や幅広い製品群と、新たに獲得した技術やノウハウを掛け合わせ、シナジーを創出していくことにより新規ソリューションを提供します。

機能  
フィルム  
事業

塗剤開発からコーティング加工へと技術領域を広げ、  
現有製品（主にハードコート製品）の商流効率化、生産能力拡大を図る

新たなコーティング技術（粘着コート、スパッタリング）における新製品開発



亀岡工場をクリーン環境で精密加工が可能な製造拠点とする

※機能フィルムのほか ウェハーレベルレンズ、有機半導体デバイスなどの電子部品分野や、将来的にはライフサイエンス分野など機能素材の開発・製造も担う。

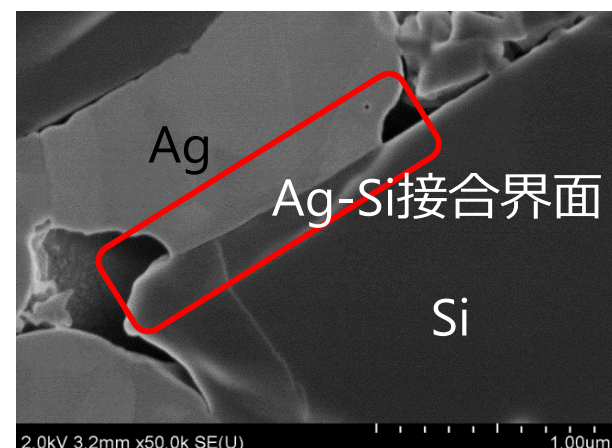
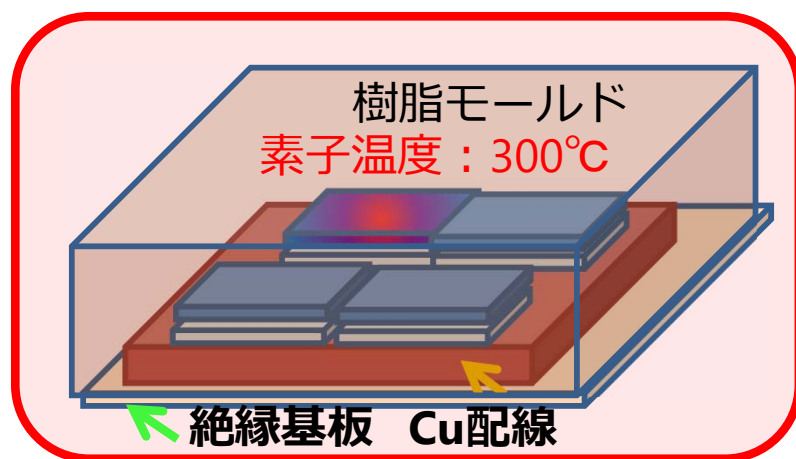
新事業へ

## スマート社会実現に貢献する新たな素材を開発 「無機複合実装研究所」 新設

当社は、今後大きな成長が見込まれる次世代パワーデバイスや次世代通信規格6Gに求められる素材として無機有機複合材料に着目し、リサーチセンターにおいて顧客ニーズ探索・基礎研究を進めてきました。この度、リサーチセンターから独立した「無機複合実装研究所」を新設し、基礎研究と並行して顧客ニーズに基づく応用研究・開発を進めるステージに移行しました。

### 次世代パワーデバイス実用化に貢献する無機有機複合技術の開発

次世代パワーデバイスの市場規模は2030年に約4兆円（当社調べ）への成長が期待されており、当社はこの実用化に必要な高耐熱ダイボンド接合技術として、Ag-Si合金焼結を提案しています。業界全体が10年以上AgやCuの純金属の低温焼結技術に留まる中、半導体素子の素材であるSi自体とAgを複合化することで、ダイボンド接合部の熱応力緩和を達成できると確信し、Ag-Si合金焼結に取り組んでいます。Ag-Si合金焼結技術は、次世代パワーデバイスを実現する機能の保証と、Ag使用量削減による大幅なコストダウンを両立するKey Technologyとなることが期待されています。



世界初Ag-Si合金焼結接合技術

### ライフサイエンス関連事業SBU発足に向けて「ライフサイエンス事業企画室」設置

当社は、キラルカラム、新規投与デバイス、製剤ソリューションなどダイセルグループが持つ医療関連事業を統合し、それらの事業戦略およびR&D戦略を立案・推進する「ライフサイエンス事業企画室」を新設しました。

ライフサイエンス事業企画室の下、世界シェアNo.1を誇るキラルカラムの顧客基盤を活用したグループ内医療関連事業のシナジー追求や、ダイセルグループが持つ製品・技術の特長を生かせる遺伝子治療分野などでの研究開発を加速し、将来のライフサイエンス関連事業のSBU発足を目指します。

### オランダのバイオ企業に「アクトランザ™ ラボ」を提供

当社が開発した新規投与デバイスは、注射針を用いずに高速ジェット流で体内組織に薬液を注入することが可能で、遺伝子治療薬などへの応用が期待されており、すでに複数の欧米大手製薬会社からも打診があります。

この度、がんや感染症に対する次世代DNAワクチンを開発するオランダのバイオ企業 Immunetune社に、アクトランザ™ ラボ技術を提供し、共同での評価を行うことを決定しました。Immunetune社への提供を足掛かりに欧米でのアクトランザ™ ラボのさらなる浸透を図るとともに、その他の大手医薬品・医療機器企業との臨床応用を見据えた共同研究を推進して新規投与デバイスの早期実用化を目指します。



# 参考資料

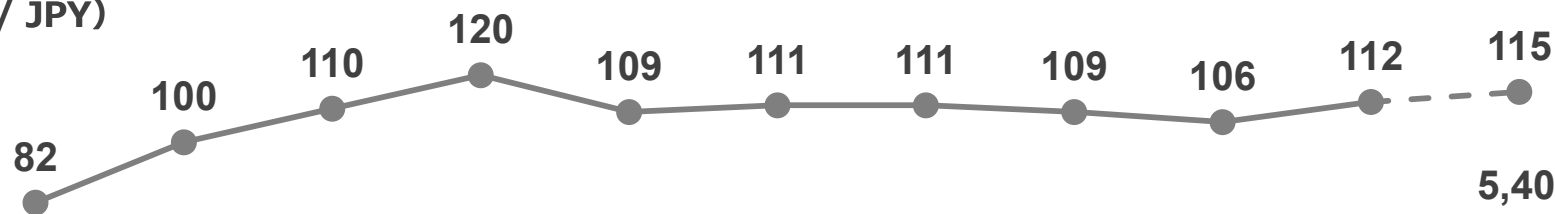


## 売上高・営業利益・EPSの推移

● メタノールアジアスポット価格 (USD / ton)

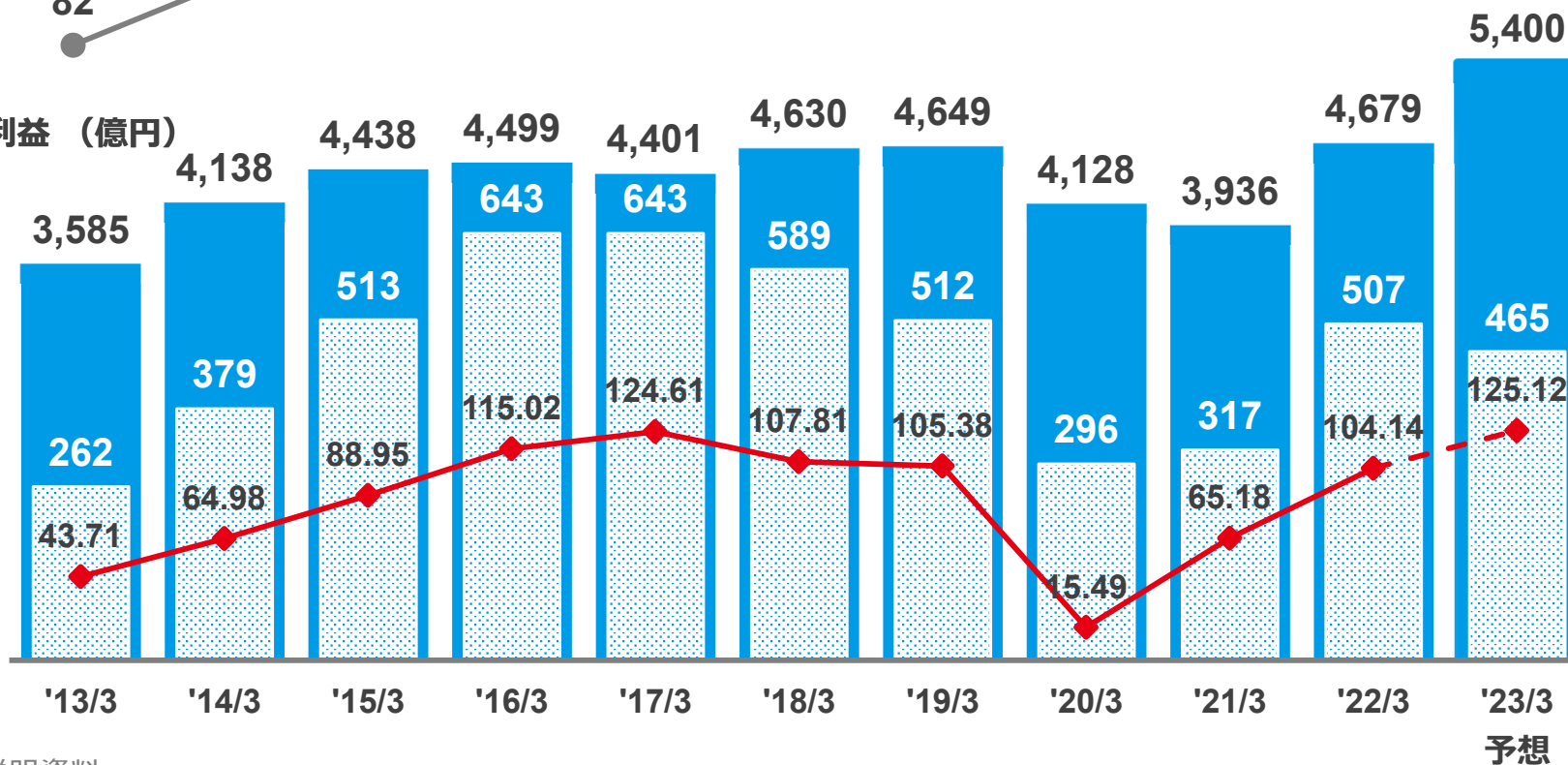


● 為替レート (USD / JPY)



■ 売上高・□ 営業利益 (億円)

◆ EPS (円)



## セグメント別営業利益（全社共通費用配賦方法見直し後）

当社は、大胆な権限委譲により自立自走する事業組織への変革を進めています。全社共通費用についても、各事業が負担すべき費用を負担し、責任を持って管理する体制に移行するため、2023年3月期より全社共通費用の配賦方法を見直します。

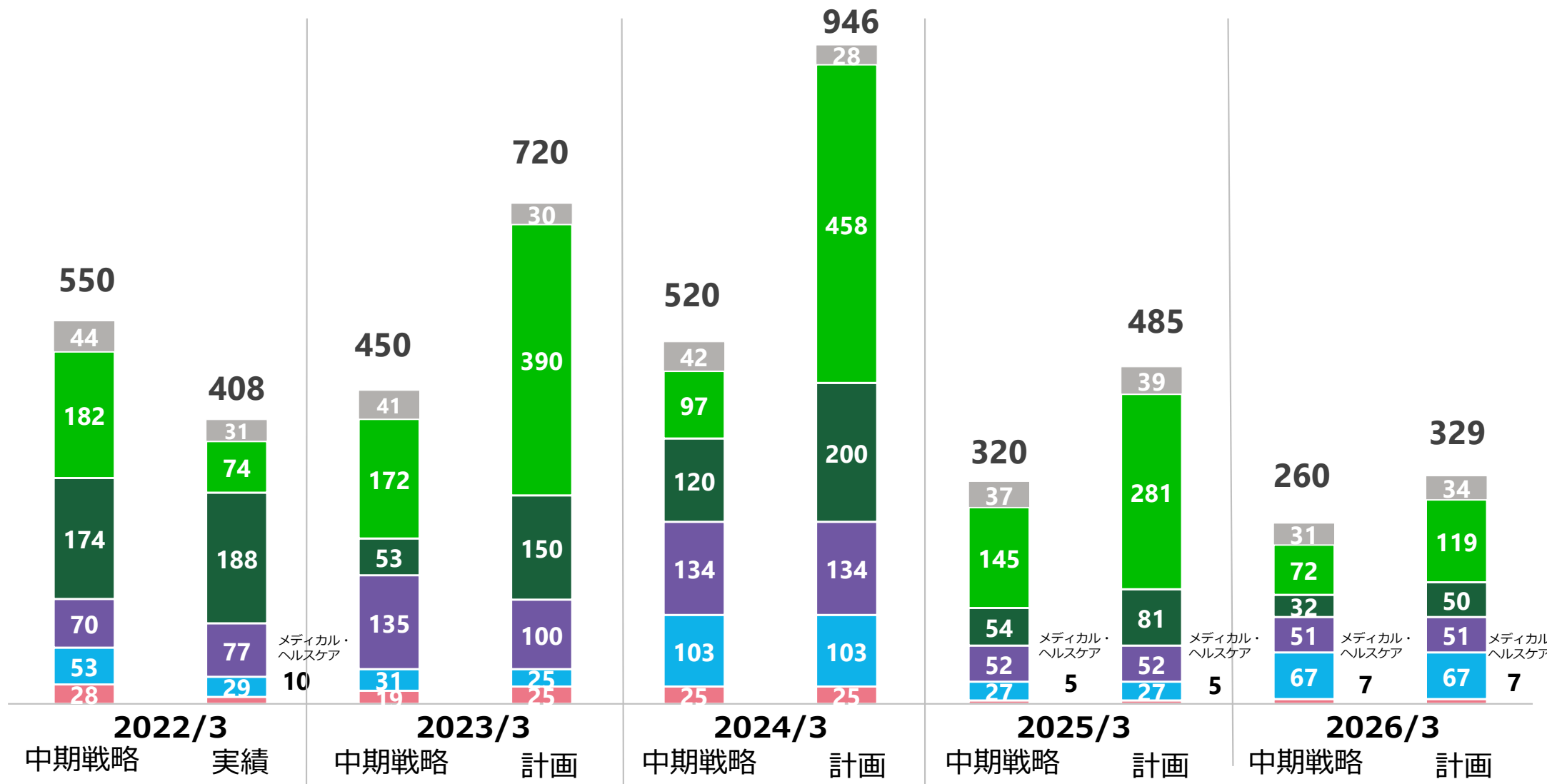
（単位：億円）

	2022/3 実績						2023/3 予想					
	見直し前			見直し後（参考値）			見直し前（参考値）			見直し後		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
メディカル・ヘルスケア	19	15	34	14	10	24	21	15	36	15	10	25
スマート	34	24	58	26	15	40	29	31	60	18	23	41
セイフティ	24	28	52	11	15	26	45	47	92	23	29	52
マテリアル	116	131	248	86	97	183	94	64	158	58	34	92
エンジニアリング プラスチック	151	107	258	132	90	221	141	154	295	113	137	250
その他	8	10	18	5	7	12	5	4	9	3	2	5
全社共通	△ 79	△ 81	△ 160	-	-	-	△ 105	△ 80	△ 185	-	-	-
合 計	273	234	507	273	234	507	230	235	465	230	235	465

## 設備投資額見通し（中期戦略期間：2022/3～2026/3）

（単位：億円）

■ メディカル・ヘルスケア ■ スマート ■ セイフティ ■ マテリアル ■ エンジニアリングプラスチック ■ その他事業・全社共通

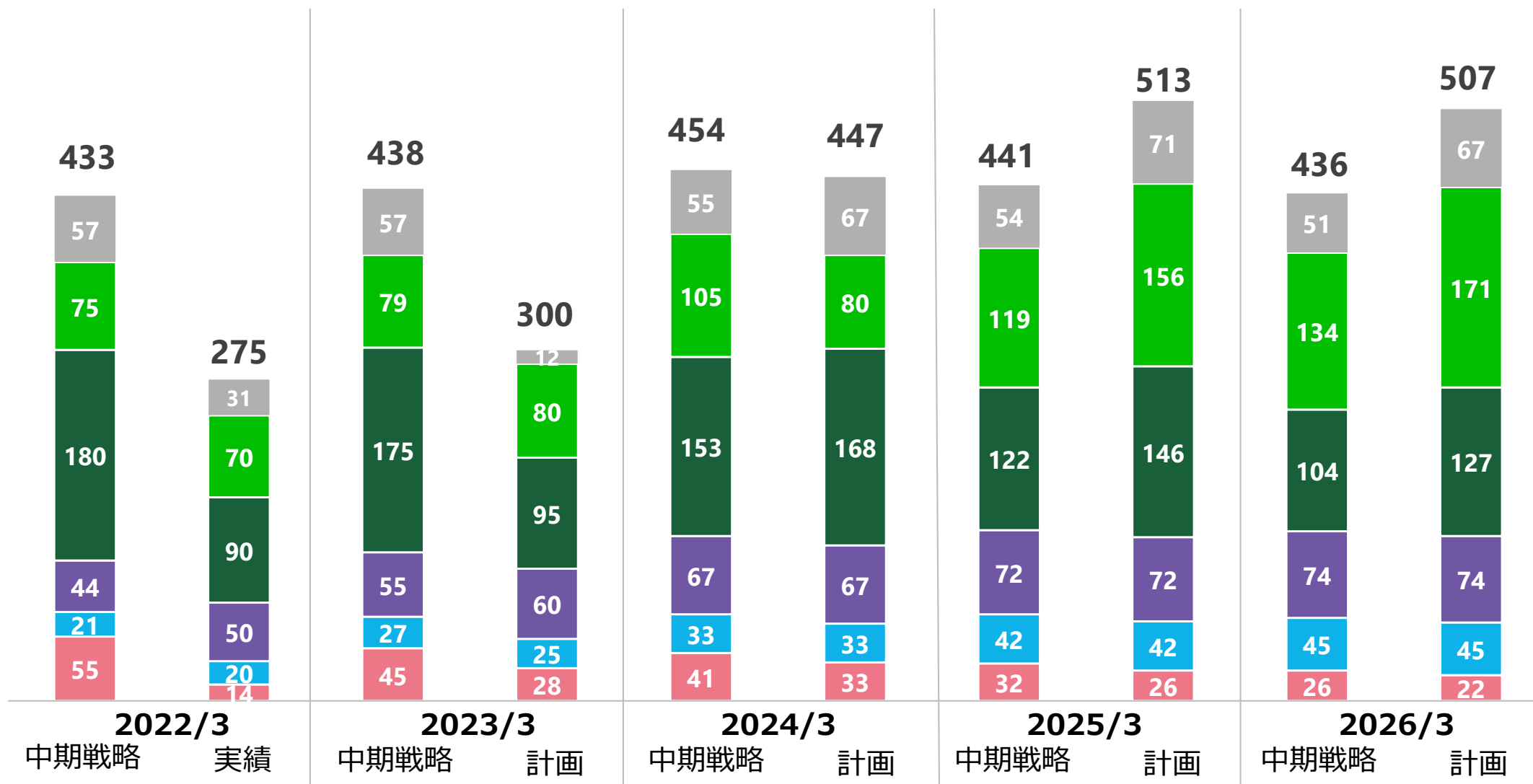


※ 2023年3月期計画の数値は、全社共通費を各セグメントに配賦した後の数値です

## 減価償却費見通し（中期戦略期間：2022/3～2026/3）

（単位：億円）

■ メディカル・ヘルスケア ■ スマート ■ セイフティ ■ マテリアル ■ エンジニアリングプラスチック ■ その他事業・全社共通

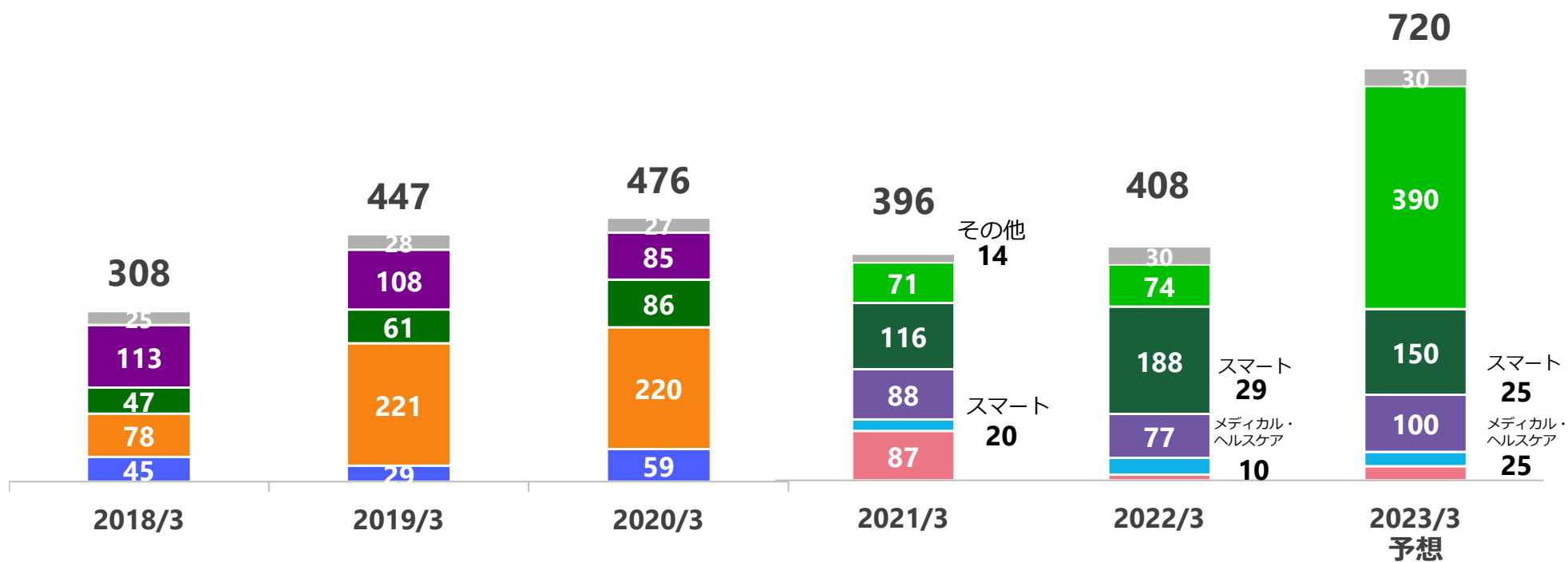


※長期前払費用償却が含まれています。また、2023年3月期計画の数値は、全社共通費を各セグメントに配賦した後の数値です

# 設備投資額

(単位：億円)

- セルロース
- 有機合成
- メディカル・ヘルスケア
- スマート
- 合成樹脂
- 火工品
- セイフティ
- マテリアル
- その他事業・全社共通
- エンジニアリングプラスチック
- その他事業・全社共通 (※)

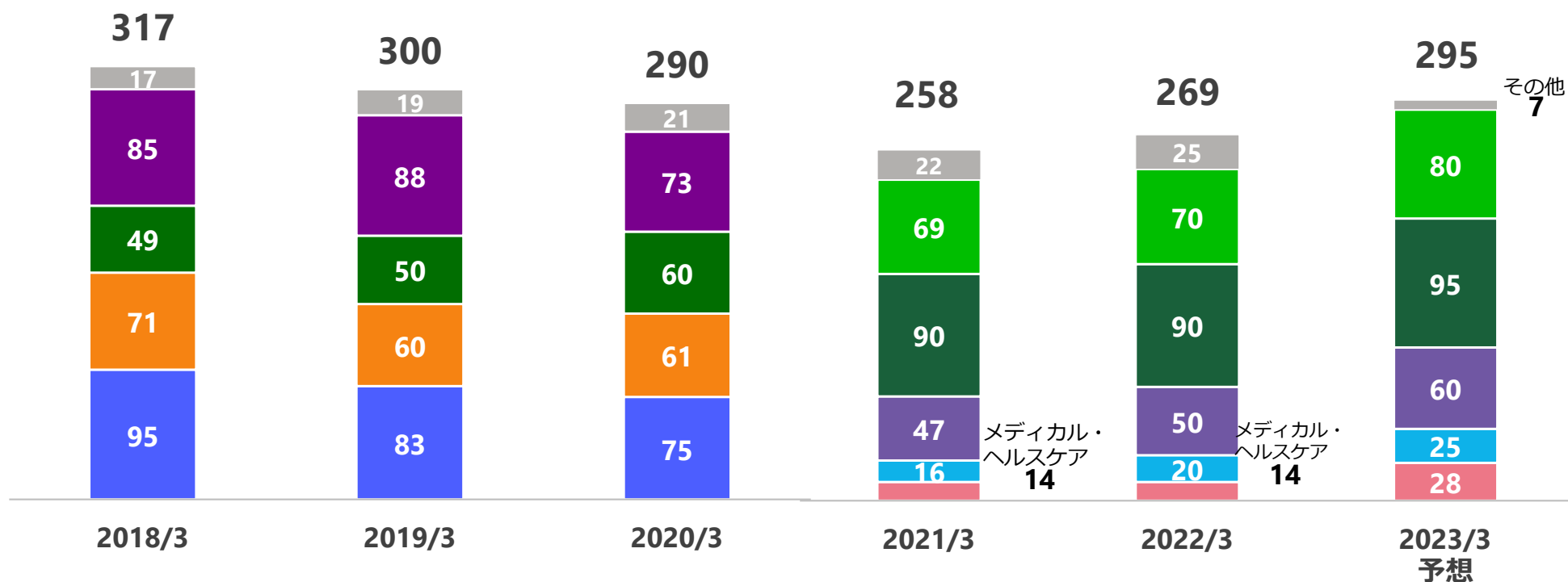


※ 2023年3月期より、その他事業のみ

# 減価償却費

(単位：億円)

- セルロース
- 有機合成
- メディカル・ヘルスケア
- スマート
- 合成樹脂
- 火工品
- セイフティ
- マテリアル
- その他事業・全社共通
- エンジニアリングプラスチック
- その他事業・全社共通(※)

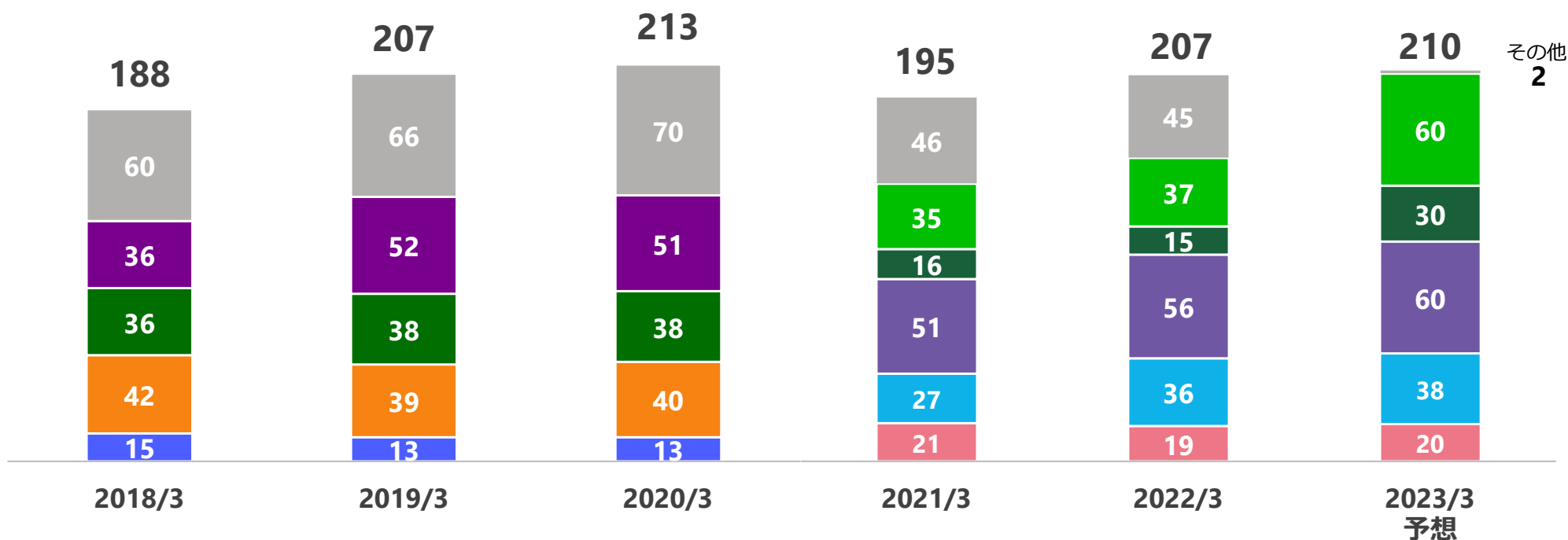


※ 2023年3月期より、その他事業のみ

# 研究開発費

(単位：億円)

- セルロース
- 有機合成
- メディカル・ヘルスケア
- スマート
- 合成樹脂
- 火工品
- セイフティ
- マテリアル
- その他事業・全社共通
- エンジニアリングプラスチック
- その他事業・全社共通 (※)



※ 2023年3月期より、その他事業のみ

## セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

（単位：億円）

売上高	2021/3				2022/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
メディカル・ヘルスケア	39	39	42	42	48	48	50	49
スマート	51	52	73	71	80	75	86	85
セイフティ	107	165	195	205	163	156	185	191
マテリアル	256	237	256	293	283	298	312	336
エンジニアリングプラスチック	352	395	465	474	515	529	524	555
その他事業	24	37	30	36	26	28	26	34
合 計	829	924	1,060	1,122	1,114	1,135	1,182	1,250

営業利益	2021/3				2022/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
メディカル・ヘルスケア	4	4	4	3	9	10	7	9
スマート	6	4	10	13	20	14	15	9
セイフティ	△ 23	6	22	17	7	17	20	8
マテリアル	39	36	34	71	60	56	67	64
エンジニアリングプラスチック	39	43	58	71	82	69	44	62
その他事業	4	5	4	2	5	2	4	6
全社共通	△ 38	△ 39	△ 36	△ 47	△ 44	△ 36	△ 36	△ 45
合 計	31	60	96	130	139	133	120	114



## 2023年3月期通期業績予想

(単位：億円)

	2022/3実績 (※)			2023/3 予想			増減
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	
メディカル・ヘルスケア	96	99	195	115	125	240	+45
スマート	154	170	325	190	200	390	+65
セイフティ	319	376	695	420	440	860	+165
マテリアル	580	648	1,228	665	685	1,350	+122
エンジニアリングプラスチック	1,044	1,079	2,123	1,230	1,240	2,470	+347
その他事業	54	60	114	40	50	90	△ 24
<b>売上高</b>	<b>2,248</b>	<b>2,431</b>	<b>4,679</b>	<b>2,660</b>	<b>2,740</b>	<b>5,400</b>	<b>+721</b>
メディカル・ヘルスケア	14	10	24	15	10	25	+1
スマート	26	15	40	18	23	41	+1
セイフティ	11	15	26	23	29	52	+26
マテリアル	86	97	183	58	34	92	△ 91
エンジニアリングプラスチック	132	90	221	113	137	250	+29
その他事業	5	7	12	3	2	5	△ 7
<b>営業利益</b>	<b>273</b>	<b>234</b>	<b>507</b>	<b>230</b>	<b>235</b>	<b>465</b>	<b>△ 42</b>
<b>経常利益</b>	<b>298</b>	<b>275</b>	<b>573</b>	<b>240</b>	<b>245</b>	<b>485</b>	<b>△ 88</b>
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>220</b>	<b>92</b>	<b>313</b>	<b>185</b>	<b>185</b>	<b>370</b>	<b>+57</b>
(参考) 為替レート USD/JPY	110	115	112	115	115	115	

※2022年3月期実績のセグメント別営業利益は、全社費用配賦方法見直し後の参考値です。

## 為替レート・主要原燃料価格

		2021/3		2022/3				2023/3	
		上期実績	下期実績	上期実績	3Q実績	4Q計画	4Q実績	上期計画	下期計画
為替レート (USD/JPY)		107	105	110	114	115	116	115	115
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	192	316	368	443	450	410	430	430
	原油 ドバイ (USD/bbl)	37	53	70	78	75	96	100	100
	国産ナフサ (円/kl)	27,500	34,500	50,500	60,300	56,000	66,000	78,000	78,000

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

愛せる未来、  
創造中。

● ● ●  
**DAICEL**